

「消化管ストーマ早期合併症の重症度分類確立を目指した多施設共同研究」
についての情報公開

消化管ストーマ合併症はひとたび起こるとストーマの管理に困難を来し、オストメイトの生活の質を障害する可能性があります。そのため、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会や日本大腸肛門病学会などの関連学会においてはストーマ合併症の少ないストーマ造設方法の確立や適切なストーマセルフケア方法の確立を目指し、議論が重ねられております。しかしながら、ストーマ合併症の評価において、議論の大前提となる全国共通のストーマ合併症の定義、分類・評価法がいまだ定まっていないことが問題となっております。

そこで今回、ストーマ合併症の重症度について、2011年に日本大腸肛門病学会で提唱された重症度分類案の妥当性と問題点を検証し、全国共通のストーマ合併症の重症度分類を確立するため、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会のプロジェクト企画委員会と連携して全国多施設での共同研究を行うことになりました。

研究期間：平成 28 年 1 月～12 月。

研究対象：消化管ストーマ造設術を受け、かつ手術後早期にストーマ合併症を発症した患者さんの周術期情報と、ストーマの形態についての情報(写真による記録を含む)。診療録に記録された情報を使用します。

上記情報の収集期間：西暦 2014 年 1 月～ 2014 年 12 月

尤法：協力施設調査票を送付し、記入の後に返送していただくことで情報を集積します。また写真による記録が残されている方については、写真のデータを CD-R 等の形態で集積します。集積される情報には個人が特定される情報は含まないため、特定の患者さんに直接の不利益がもたらされることはないと考えます。集積された情報を元に、重症度と治療経過の関連、および重症度分類案の判定上の問題点を明らかとして、重症度分類の確立を目指します。

研究の詳細については日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会のホームページ上にて公開します。(URL: <http://www.isscr.jp>)

なお、研究に関するお問い合わせ、ご意見、研究協力拒否等のご要望につきましては、外科外来もしくはストーマ外来等の担当者にお伝えいただくか、研究代表者までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

研究代表者：

独立行政法人労働者健康福祉機構東北労災病院大
腸肛門外科高橋賢一

TEL 022-275-1111 , FAX 022-275-7541

〒981-8563 仙台市青葉区台原 4 丁目 3-21

上記の調査依頼が日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会よりあり、山形県立中央病院外科でも調査に参加協力を行うこととなりました。つきましては、平成26年1月～12月に当科で手術が行われた患者様を対象に調査を行いますので、情報公開いたします。

この調査研究に関しましてお問い合わせ、ご意見等ございましたら、外科外来、研究担当者までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

研究担当者：

山形県立中央病院

外科 佐藤敏彦

TEL 023-685-2626 ， FAX 023-685-2673

〒990-2292 山形市大字青柳1800番地